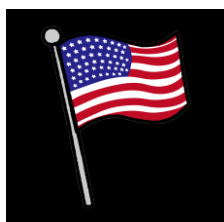


2年生探究学習「平和プロジェクト班」海外研修



IN NEW YORK



2学年のエイブルタイム「平和班」が行っている「ヒロシマ・ナガサキ合同探究プロジェクト」について、初の海外研修を行いました。3月4～6日に長崎県立長崎東高校の生徒1名、舟入生3名がニューヨークを訪れました。両校の生徒は、3日間で様々な場所に赴き、人と出会い、勉強する中でたくさんの学びを得ることが出来ました。以下、ニューヨークにおける3日間の研修内容をご紹介します。

1日目

グラウンド・ゼロに赴き9.11メモリアルや慰霊碑を見学しました。ここは2001年9月11日にイスラム過激派テロ組織アルカイダによるテロ攻撃を受けた場所です。攻撃を受けたワールドトレードセンター跡には、亡くなった方の鎮魂と慰霊のためプールと呼ばれるモニュメントがあり、周りには亡くなった犠牲者たちの名前が刻まれていました。9.11メモリアルには、旅客機がビルに突っ込む映像や、ビルが崩壊する映像、一部が溶けている消防車、犠牲者らの肉声や遺品、映像が展示されており、この事件で罪のない多くの民間人や消防士の方々が亡くなったという事実の重みを肌で感じました。亡くなった方だけでなく、遺族の方々の悲しみも忘れてはならないと思いました。



「プール」と呼ばれるワールドトレードセンター跡にて学習する様子



9.11メモリアルの展示の様子

2日目

ニューヨーク国連本部で施設の見学や国連職員との対談を行いました。この日は核兵器禁止条約（TPNW）第3回締約国会議があり、議長であるカザフスタンの外務大臣の方や国連事務次長・軍縮担当上級代表の中満泉さんにお会いしました。ご多忙のため対談には至らなかったものの、お二方から貴重なお話を聞かせていただきました。その後、国連軍縮部で小型武器軍縮に取り組んでいらっしゃる益子崇さんと1時間半ほど対談の時間を設けていただき、軍縮や平和における考え方や現状をお聞きしました。現状を変えることがなかなか難しい中でも少しずつでも変えようと軍縮のために腐心する益子さんの姿を前に、人ごとではなく私たちもできることをしなければならないと強く感じました。



国連安全保障理事会会議室にて



中満さんなど核軍縮に取り組まれている方々と記念撮影



益子さんの話を聞く様子



国連前で記念撮影

3日目

自由の女神像があるリバティー島と移民博物館があるエリス島へ行き、自由の女神や移民の歴史について学びました。エリス島は1892年から1954年の62年間連邦移民局が置かれ、1200万人を超える移民を受け入れた場所として知られています。船を使って、エリス島に移動したため、自分自身も移民としてエリス島に訪れたような疑似体験ができました。当時の移民入国審査の方法や流れ、様子がわかる展示(下の写真など)は、当時使われていたものも多く残っており、新しい土地で働く移民の期待や喜び、または不安や緊張、嘆きを感じられました。



後ろから見た自由の女神



船に乗って移動



左の展示:異常があると見られる移民は首元にチョークで印をつけられた。



右の展示:かつて様々な国から移動してきた移民の宝物が保管されている。

3日を振り返って

国連では益子さんとお話させていただきだけでなく、国連職員のスーさんに国連を案内していただいたり、長崎東高校の元ALTのマシュー先生と一緒にご飯を食べたり、ニューヨークを歩いたりしました。長崎東高校の引率の先生やガイドの方にもお世話になり、このような多くの人との出会いが、よりこの研修を特別なものにしていったと実感しています。

今回はこのような貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。本当に多くの支えがあったからこそ、このような特別な研修が実現したということに、喜びと感謝で胸がいっぱいです。この活動で得た経験や知識をこの旅で終わらせるのではなく、また新たに問いを立て続けていき、それらの経験を基に「伝える」ことを大切にしていきたいです。

